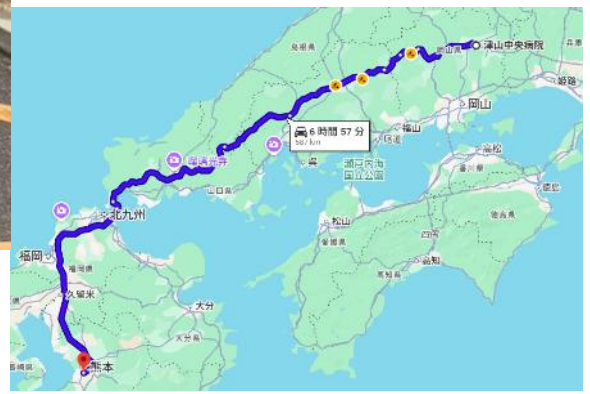
TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center



令和8年熊本地震 DMAT活動報告

津山中央病院 DMAT





医師2名：**救急集中治療科 前山 青島**

看護師2名：**毛利（ICU） 頭利（N4西）**

業務調整員：**服部（薬剤部） 光岡（放射線部）**

参集拠点兼活動拠点本部：**済生会熊本病院**

所要時間：**9時間15分**

津山中央病院DMATの活動内容

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 1日目：病院支援（当直）
- 2日目：当直明け
- 3日目−1：避難所スクリーニング＆
- 3日目−2：病院縮小ミッション
- 4日目：施設スクリーニング

Day 1　病院支援

被災医療機関の機能維持と負荷軽減

位置関係




済生会熊本病院
片道16km 約30分
宇城総合病院
あきた病院
南部総合スポーツセンター
川尻
南区
イオンモール熊本
臨時休業
嘉島町
夫婦神の浮島
水前寺江津湖公園
広木地区管理棟
熊本市動植物園
富合
栗崎神社
住吉
緑川
宇土
宇土市
立岡自然公園
熊本市塚原歴史民俗資料館
津志田河川自然公園
松橋
宇城市
熊本県博物館ネットワークセンター
美里町

2隊に分隊

- Dr：2、Ns:2、Lg:2の編成　搬送能力のある車両が1台
  転院ミッション隊とER・院内オペレーション隊に分隊した










OKAYAMA
おかやま DMAT
TSUYAMA
CHUO
HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center
DOCTOR CAR STAFF
看護師
NURSE


8092





夜間は交代で対応
Walk-in:5名　救急車3名に対応　2名を熊本市内に転院搬送
外傷：4名　内因:3名（うち熱中症2名）　心身症:1名







病院支援は縮小傾向
DMAT1隊とAMAT3隊に引継ぎ実施
本部に帰着後報告し、7月31日は終了





熊本市内近隣は宿の確保ができず、
130km先の福岡県内のホテルに移動し宿泊。
余震活動をあまり気にすることなく、
ウェアの洗濯や近隣の飲食店やスーパーで
買い出しをしつつ休養に努めました。

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

Day 3　避難所スクリーニング

医療ニーズの早期把握とハイリスク者の抽出

上益城地域の避難所スクリーニングへ

- 御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町の5町で形成される

- 人口：81,281人
- 管轄保健所：御船保健所
- DMATコーディネーターに同行



全体的な印象として

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

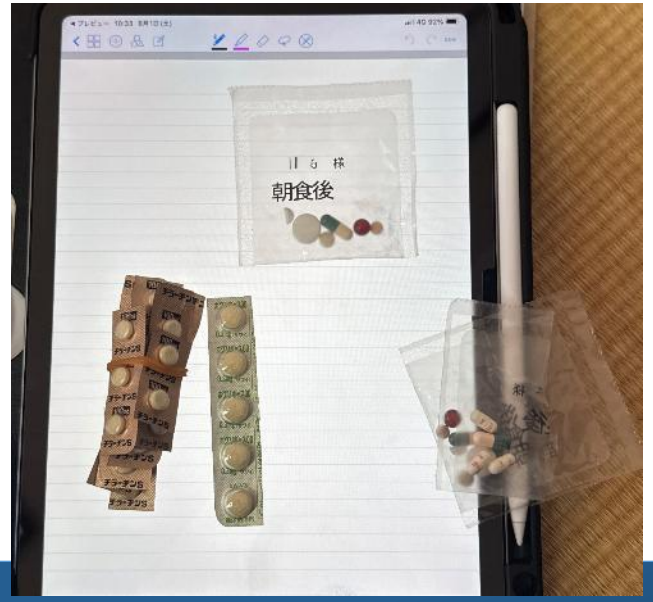
- 2016年の熊本地震の被害が大きかった地域でもあり、全体的に**“DMATやボランティアなしで自分たちで乗り越える”**という意識が非常に強い印象。
- 訪問するや否や、“保健所の許可は取っているか”など**やや閉鎖的**。

- 聞き取りを始めると、避難所の**長期化は自治体として避けたい**よう食事水分や快適に過ごすための設備（段ボールベッドなど）の提供を控えているとのことで、保健師から自治体への不満が多く聞かれた

患者診察実施

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 首の痛みと高血圧を訴える80代女性
- 避難所生活は初めてだと
  鹿児島県水から外来受診に来熊し被災
  道路寸断・鉄道不通で帰宅困難
  御船町に住む親族と共に避難している。





搬送ミッションへ

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 甲佐町でスクリーニング中に
  途中で分隊していた本部への報告隊より、
  “荒瀬病院から**転院搬送ミッションが**発生し、人員を要する”
  との連絡あり
  荒瀬病院は現在地から**徒歩2分**の距離

- 本部や同行するDMATコーディネーターと相談したうえで
  避難所スクリーニングはDMATコーディネーターのみで継続し、
  当院DMAT隊は荒瀬病院で集合することに

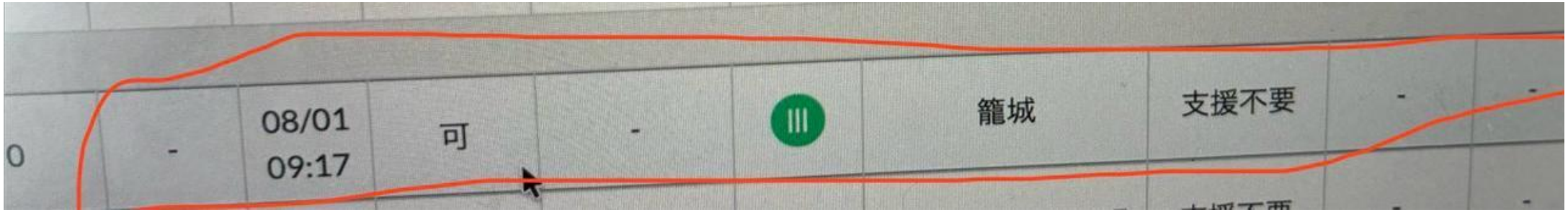

医療法人 荒瀬病院
DMAT


マスヤ商店
文房具店
月花 ghecca | Kumamoto Pottery & Crafts
インテリア用品店
甲佐町 総合保健福祉センター
荒瀬病院
茶屋呉服店
着物販売店
池田製菓舗
和菓子屋
105
ウェーブハウ
ハーフカー

荒瀬病院の状況

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 35床の療養患者中心の病院　在院患者は当時25人
  うち酸素:3名 担送:10名 護送:5名



- 7月29日：支援不要
  7月30日：支援不要だがこのままの状況が長引くと患者搬送も要検討
  7月31日：問題なし、3日以上診療継続可能

8月1日：院内混乱しており10名程度搬送検討中

DMAT 4隊で患者10名の搬送を完了

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center







Day 4　施設スクリーニング

医療・介護・生活インフラの継続性を確認





各施設で聴取した内容を報告し
終了しました

失敗した事・困った事・いざこざ

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

①病院・施設・保健所・市民いずれもDMATの扱いには**慣れていた**
“自分たちのやり方でやっていく”という気概が強く、
DMATの支援に対して距離を感じることも多かった

「DMATがくることが災害だ」を少し実感・・・

どう工夫して乗り越えたか

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

窓口となる人（今回では保健所所長さん）との
地道なコミュニケーション

できるだけ同じ人が担当していく

課題･反省点

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 活動拠点本部との情報伝達がうまくいかないことがあった。
- 救急車の老朽化および機材車の大きさ
  - 救急車が古く高速道路での走行に不安があった
  - 随伴の機材車がコンパクトカークラスであり資機材を乗せると人員のスペースがほぼなかった

後方支援体制はどうだったか

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 出動していない隊員で当番制。
- 夜勤者なども当番に入り24時間のバックアップ体制をとった。
- 1日目の当直ミッション時には後方支援隊よりホテルへの交渉を行ってもらい活動中のロジ隊員は活動に専念できた。

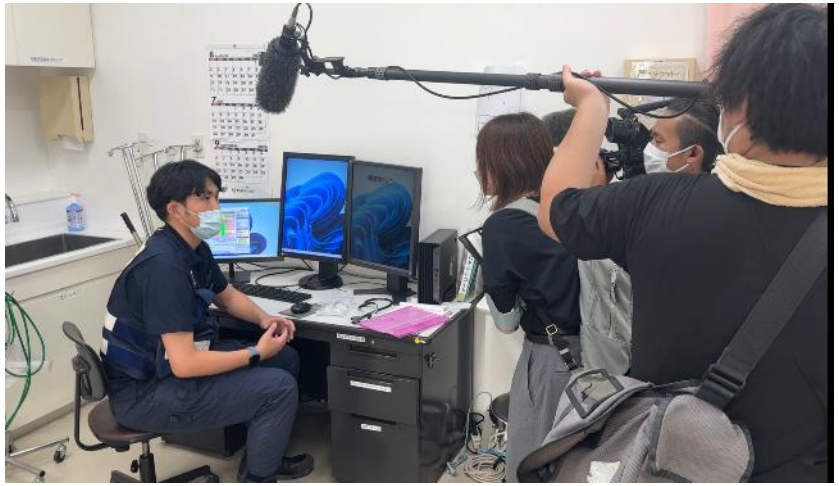
今回の活動での気付き

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center

- 支援チームが歓迎されないこともあると改めて実感
- Dr2名　Ns2名　Lg2名の構成で出動したので分隊することができ柔軟な活動ができた。
- 多くのメディア露出があり広報の意味ではよい派遣であった。

多くのメディア露出

熊本県民テレビ
OHK
日本テレビ
　（全国放送！）
TBS
　（少しだけ）
山陽新聞
津山朝日新聞







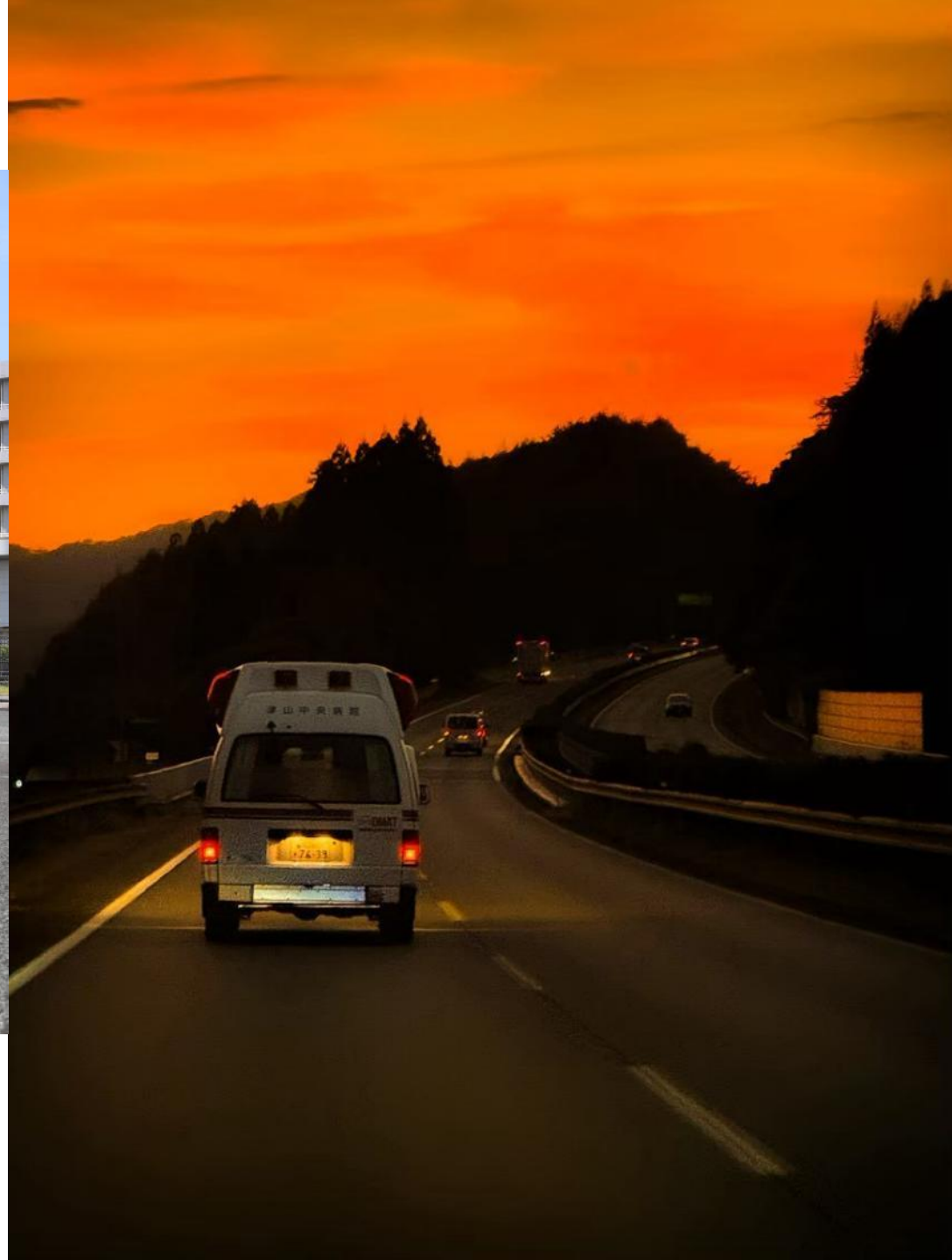


クラウドファンディングしてます

TSUYAMA CHUO HOSPITAL
Emergency and Critical Care Center







ありがとうございました！